

2021年度 第5回 現代文化人類学会（旧早稲田文化人類学会） 定例研究会

発表者：菊池真理（筑波大学大学院人文社会科学研究所博士課程修了）

日時：2021年10月25日（月）18時15分～

場所：Zoomによるオンライン開催

*どなたでもご参加いただけます。ただし、オンライン開催のため、事前申込が必要です。

10月22日（金）までに下記のGoogle フォームを通じて申し込みください。10月23日以降、参加申込をされた方のみ、ZoomのURLをお送りします。

<https://forms.gle/AUW5pbYHg7nbjxRS6>

タイトル：

スリランカ内戦後を生きる人々の「傷つきやすさ」（vulnerability）への対処

要旨：

本報告では、スリランカ内戦（1983～2009年）後を生きる人々が、民族間および民族内で互いにどのような関係を築いているのかについて、他者との関わり合いにおける彼らの「傷つきやすさ」（vulnerability）に着目しながら明らかにする。

1）他者との関係性が生の不確実性／偶発性によって作りだされていく側面を捉えようとする近年の人類学的研究を参照しつつ、2）調査地の人々の生における不確実性を「傷つきやすさ」として捉え、それが民族間および民族内で対立や暴力を経験してきた彼らの他者との関わり合いにおいて、どのように働いているのかを理解することを試みる。

人々の生活の場においては、国家などによる「敵か、味方か」という一元的で排他的な人の分類と、それに基づく「憎しみか、和解か」という二項対立的な関係様態の枠組みではなく、自らの「傷つきやすさ」への対処が促す「何者にもなり得る在りよう」こそが、内戦後も彼らを他者と共に生き延びさせるような関係性をつくりだしていることを示す。

お問い合わせ：

現代文化人類学会定例研究会ワーキンググループ

箕曲在弘

minoo [a] waseda.jp

* [a]を@に変えて送信してください。